

令和5年度 第2回 食育推進検討部会 会議録	
日 時	令和5年11月14日（火）午後7時～9時
開 催 場 所	市庁舎18階みなと6・7会議室
出 席 者	食育推進検討部会委員 12人（別添資料1）
欠 席 者	天貝委員、飯笹委員、植木委員
開 催 形 態	公開（傍聴者0人）
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）第3期横浜市食育推進計画について</p> <p>ア 第3期健康横浜21素案に係るパブリックコメントの結果概要</p> <p>イ 原案（案）</p> <p>（2）食環境整備検討会報告及び「食環境づくり協力店の枠組み」について</p> <p>4 報告</p> <p>（1）健康に関する市民意識調査について</p> <p>（2）モデル事業の効果検証（中間報告）について</p> <p>5 その他</p> <p>今後のスケジュールについて</p>
1 開 会	
2 あいさつ	<p>（金子部会長）</p> <p>前回の検討部会では、食育推進計画の素案について検討いただいた。本日は、パブリックコメントで寄せられたご意見を踏まえた計画の原案について、事務局が作成した案を基に議論していきたい。また、これまで食環境整備検討会で検討してきた「食環境づくり協力店の枠組み」についても議論したい。</p> <p>（事務局）</p> <p>資料確認（資料1～8）</p>
3 議 事	<p>（1）第3期横浜市食育推進計画について</p> <p>（事務局）</p> <p>資料説明（資料3、4）</p> <p>（長島委員）</p> <p>パブリックコメント結果について、年代別の集計結果がないのは、回答者数が少ないためなのか。回答者171人の年代層の内訳について公表する予定はあるか。</p> <p>（事務局）</p> <p>年代層の把握はしているが、今回の資料には掲載していない。半数近くが20～50歳代で、働き世代からの回答が多かった。年代と回答項目とのクロス集計による分析はしていない。</p> <p>（長島委員）</p> <p>年代と回答内容の関係を分析することにより、今後の対策を考えられるのではな</p>

いかと思った。

(岩本委員)

指標⑦の20～60歳代男性の肥満の者の割合の目標は30%未満と、女性の同年代と比較しても基準が緩いように感じるが、国の基準を参考しているのか。

(事務局)

第3次健康日本21の目標値と合わせている。

(米山委員)

資料4-1の155ページ「行政の取組(全世代)」についての記載内容は、ヘルスメイトの活動と重なる部分が多い。行政と協力して実施していることから、ヘルスメイトの活動もこの取組の中に含まれていると捉えてよいのか。

(事務局)

ご認識のとおり。

(金子部会長)

他にご意見が無いようであれば、横浜市食育推進計画原案についてはこの内容で承認いただけるということによろしいか。

なお、今後の予定としては、11月28日の健康横浜21推進会議に本計画の原案をあげ、第3期健康横浜21と一体的に審議をしていただく。その後、令和6年第1回横浜市定例会で議決されたのちに計画を公表する予定となっている。審議が進む中で、原案の修正が必要となる場合は、部会長と事務局で調整等していきたいが、よろしいか。(異議なし)

(2) 食環境整備検討会報告及び「食環境づくり協力店の枠組み」について

(事務局)

資料説明(資料5)

(金子部会長)

ご質問、ご意見を願います。

(岩本委員)

今回新たな枠組みを作成した後は、市として協力店舗を募っていくことになるのか。市としての「ハマの元気ごはん弁当」は、今回の2種類で終了となるのか。

(事務局)

今回はモデル事業として実施した。今後は今回作成した新たな枠組みの運用方法を整理し、来年度は協力店舗が広がっていくように進めていく予定。広く周知し、登録を促していきたい。現在の登録制度「よこはま健康応援団」は終了する。

(岩本委員)

外食産業も対象になるのか。

(事務局)

外食も対象とする。表示できるようなマークを作成して、基準に合ったものであることが分かるようにする工夫も考えている。

	<p>(松谷委員) 「ハマの元気ごはん弁当」は、何店舗で何食販売したのか。</p> <p>(事務局) 51 店舗で約 26,000 食を販売した。</p> <p>(松谷委員) かなり多い数だと思った。仕出し屋をやっているが、バランスのとれたよい弁当だと思っている。ただ、10 月に一斉に食材料費が上がっているの、値段を考慮してもらわないと、企業としては参入が難しいのではないかと。</p> <p>(事務局) 値段は、事業者で決めていただいている。</p> <p>(菅委員) この取組はとてもよい。ずっと長く続けるために、ハマの元気ごはんシールを作ったり、店舗一覧を分かりやすくホームページに掲載されていたりすると、事業所にとっても登録したいと思ってもらえると思う。店舗で掲示できる登録マークなどがあるとよい。</p> <p>神奈川県はかながわブランドのサポート店に旗を配付し、取組について自信をもって掲げられるようになってきている。かながわブランドの認証を受けるとマークを付けて売ることができるので、売る側のモチベーションにもつながる。基準についても、マークに星印などで格付けがあるとよいと思った。</p> <p>(事務局) 星による格付けのようなものは無いほうがよいという意見を食環境整備検討会でいただいているので、何の基準を満たしているかが分かる表示を検討している。</p> <p>(君塚委員) 以前に、肉について横浜ブランドを使うようにしたことがあるが、シールを貼ることが義務になると、それに伴って制約が出てきたりもする。参加していないところは「良くない店舗」と見えないような工夫が必要だと思う。今後、新たな基準を満たす弁当を販売するとして、必ずシールが貼れるかという難しい場合もある。</p> <p>(金子部会長) 枠組みについては、了承していただけるということによろしいか。(異議なし)</p>
4 報 告	<p>(1) 健康に関する市民意識調査について</p> <p>(事務局) 資料説明 (資料 6)</p> <p>(金子部会長) ご質問やご意見をお願いします。</p> <p>(長島委員) 問 28 の農業体験には、家庭菜園を含まないのであれば、そのことを追記したほうが分かりやすい。</p>

(君塚委員)

問 28 は、労働ではなく体験ということか。実際の農家や漁業での体験というイメージなのか。

(長島委員)

見学も入るのか。

(事務局)

所管課と調整の結果、漁業の流通を見ることも体験とした。

(田村委員)

問 28 について、農林漁業体験のうち、横浜市では林業をやっている農家はないと思う。

(事務局)

経験については、必ずしも市内での体験ということではない。設問内容は国の記載に準じている。横浜市で想像しやすいように事例を変えている。

(後藤委員)

幼稚園での芋ほり、観光農園でのいちご狩りなども含むか。

(事務局)

それらの体験も含む。体験をしている市民の割合を把握するための項目なので、体験のアレンジを所属機関がしたか、家庭で計画したか、ということは問わない。身近に感じてもらい、地産地消の意識を高めることにつながると考える。

(長島委員)

そうであれば、家庭菜園のほうが体験に近いのではないか。質問の目的をどこに置くかによって、家庭菜園を入れるかを検討するとよいのではないか。小学校の授業でも米作りなどをしているので、回答者がそのことをイメージして答えられるような設問にするとよいと思う。

(金子委員)

調査対象が 20～69 歳であることから、小学生の頃の体験を思い出して回答することが多いと思うが、これからの取組内容を検討していく上では、過去の体験を答えるより、現在進行、あるいは将来の取組を聞いたほうがよいのではないか。

(君塚委員)

問 25 について、「誰かと一緒に」というのは、家族と同居していない場合を想定して、一人ではなく誰かと食事をしているかを聞く意図なのか。また、なぜ昼食については聞かないのか。

(事務局)

設問内容は、一人暮らしの方が増えていることを背景としている。また、昼食については、職場で食べる人が多いという想定。国の設問に合わせている。

(君塚委員)

例えば朝食でも、職場で食べる人もおり、一概には言えないのではないか。

(望月 (選) 委員)

生活環境は様々なので難しい部分もあるが、一般的なこととして設定するしかないのではないかと思う。また、家庭菜園での体験が農業や地産地消への興味にもつながるのではないか。

(岩本委員)

家庭菜園も入れたほうがよいと思う。

(事務局)

問 28 の設問については、検討したい。

(金子部会長)

文言については、事務局で検討してほしい。

(2) モデル事業の効果検証 (中間報告) について

(事務局)

資料説明 (資料 7)

(金子部会長)

ご質問、ご意見を願います。

(後藤委員)

ハマの元気ごはん弁当は、国産使用など、産地の取り決めはあるか。

(事務局)

栄養バランスの基準以外の基準は設けていない。

(岩本委員)

弁当販売金額の上位 5 位に、かつ丼、天重などの揚げ物が多く驚いた。このことは、例えば家庭で揚げ物をしないので、弁当を買うときは揚げ物を選ぶことが多いのかもしれないとも考えられるが。その中で、今回の「ハマの元気ごはん弁当」の販売金額はどの店舗でも上位 3 位内に入っていることは、頑張っていると考えます。

(長島委員)

5 店舗のグラフを見た時に、例えば店舗 B の状況は、7 月に販売金額が落ちているが、ハマの元気ごはん弁当は 1 位になっている状況がある。店舗の立地などによって売れ筋に影響すると考えられる。地域による差が比較できる 5 店舗の抽出はよかったと思う。

(田村委員)

そうてつローゼンは、食品スーパーの中では値段が高いので、高齢者層、生活に余裕がある人が購入層となっていると思う。ターゲット層の異なる店舗でも販売していただけるとよいと思う。

(松谷委員)

バランスのとれた弁当はよいと思うが、人件費が高いので、この取組を他企業に広げていくには事業として厳しいのではないかと思う。

(望月 (悟) 委員)

	<p>例年の売上は、夏場に向けてもともと上がるものなのか。それともハマの元気ごはん弁当による効果によって上がっているのかが、今年度の推移のみだと分からない。例年の売上推移もデータとしてあれば参考にできるのではないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>売上については、経年での比較も必要と感じている。</p> <p>(金子部会長)</p> <p>本日の議事、報告は以上で終了する。</p>
そ の 他	今後のスケジュールについて
資 料	<p>資料 1 健康横浜 2 1 推進会議 食育推進検討部会 委員名簿</p> <p>資料 2 食育推進検討部会設置要綱</p> <p>資料 3 第 3 期健康横浜 2 1 素案に係るパブリックコメントの結果概要について</p> <p>資料 4-1 第 3 期横浜市食育推進計画原案 (案)</p> <p>資料 4-2 素案修正箇所一覧</p> <p>資料 5-1 令和 5 年度「食環境整備検討会」について</p> <p>資料 5-2 食環境づくり協力店の枠組み (案)</p> <p>資料 5-3 身体活動レベルと推定エネルギー必要量</p> <p>資料 6-1 健康に関する市民意識調査 調査票の内容について</p> <p>資料 6-2 健康に関する市民意識調査 調査票 (案)</p> <p>資料 7-1 モデル事業の効果検証の中間報告</p> <p>資料 7-2 「ハマの元気ごはん弁当 第 2 弾」記者発表資料</p> <p>資料 8 第 3 期健康横浜 2 1 策定スケジュール (予定)</p>